

目的　縫製作業の疲労について、筆者らは先きに学生を対象として、未経験者の場合、作業環境条件の相違の場合等について報告した。今回は、縫製工場の従業員を対象として、疲労の自覚症状について調査し結果を得たので報告する。

方法　Ⅰ）期間は1977年8月20日～26日までの1週間、Ⅱ）調査地は佐賀県神埼郡三田川町にある縫製工場、Ⅲ）対象人員は約110名、Ⅳ）調査項目は疲労感と自覚症状、調査表は、産業衛生協会、産業疲労研究会作成による自覚症状調査表を使用した。Ⅴ）調査時間は、作業前（8時）と作業後（17時）である。Ⅵ）疲労感・自覚症状とも土曜日から翌週金曜日に至る1週間の変化と従業員の持つ社会的条件・生活条件等、11項目の面から検討した。11項目とは、職種・経験年数・年齢・性別・結婚・未婚の別・子供数・親と同居・別居の別・通勤時間・昨日の疲労度・寝つきの工合・睡眠時間等である。

結果　疲労感・自覚症状訴え率とも土曜日が、一番高く、月曜日が、それに続いた。30項目別自覚症状では「足がだるい」「目が疲れる」「肩がこる」等の項目に訴えが多く集中した。職種別では、アイロンかけ・縫製・グレイダー等の職種に訴えが多かった。経験年数で3年以上5年以下の者に、年齢では25才以上30才以下の者に訴えが多かった。